

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	Aile		公表日		令和7年 5 月 19 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5名		運営基準を満たしたスペースで、十分な訓練スペースが確保できている。	室内だけでなく、事業所の庭なども活用して訓練のバリエーションを増やしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5名		運営基準を満たし、児童数に対して適切な人員確保ができている。	今後も研修受講や資格取得などを行い、支援の質の向上を図っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5名		こどもたちが分かりやすい構造化、スロープや手すりの設置など、配慮できている。	より安全に利用できるよう、バリアフリー化に関して、少しでも段差をなくすよう検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5名		活動に合わせた空間づくりを心掛け、日々の清掃で清潔を保っている。	今後も日々の清掃で清潔を保ち、児童の活動空間の確保と清潔保持に努めていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5名		2階の個室の利用を許可し、その日の状態によって個室で対応できる環境を整えている。	引き続き、日々改善を行い児童が安心して通所できる環境を提供していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5名		日々のスタッフミーティングの中でPDCAサイクルを意識した会議を行っている。	今後も日々のPDCAサイクルを行いながら、支援の質の向上を図っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5名		アンケート結果を受け入れ、スタッフ間で共有し改善に努めている。	アンケート結果を受けて、スタッフと保護者の認識のズレを把握し、解消に努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5名		日々のスタッフミーティングの中で、それぞれの職員からの意見を確認、共有し業務改善に繋げている。	今後もスタッフ全員が意見を出しやすい環境を作り、より良い業務ができるよう努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2名	3名	他事業所からのアドバイスなどを取り入れている。	第三者による外部評価は行ってないので、今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5名		参加できる研修には積極的に参加し、スタッフの希望する研修には受講できている。	今後は法人内でも研修も増やしていき、支援の質の向上とスタッフの人間力の向上を図っていく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5名		事業所のホームページにて支援プログラムの公表を行っている。	定期的に支援プログラムの見直しを行い、より良い支援に繋げていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5名		それぞれの子どもや保護者に対して適切なアセスメントを行い、児童発達支援管理責任者が作成している。	必要に応じてモニタリングを行い、個別支援計画書の見直しを行っていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5名		原案を作成し、職員で会議を行い利用者主体の検討を行っている。	今後も職員の理解が深まるよう、意見を言いやすい環境を提供し、より良い支援に繋げていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5名		日々の個別支援計画実施記録の中に個別支援計画を記載し、計画に沿った支援を行うことができるよう工夫している。	今後も、しっかりと職員間で共有していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5名		5領域が含まれたツールを用いて、児童発達支援管理責任者が作成している。	他事業所の活動や訓練なども参考にしながら、質の向上を図っていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5名		ガイドラインに沿った個々の課題を設定し、具体的な支援内容を明記している。	今後も、日々改善を行い質の向上を図っていく。また、他事業所の情報も聞き入れながら広い視野を持って作成していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5名		会議の中で一つのチームとして立案を行っている。	今後もチームとして支援していけるよう継続して行っていく。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5名		季節に合わせた活動や訓練を行っている。	他事業所の活動や訓練なども参考にしながら、質の向上を図っていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5名		日々の状況に合わせて活動できるよう作成している。	身体と心の状態を把握した上で支援できるよう引き続きサポートしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5名		業務開始時に当日利用の児童について会議を行っている。	今後も継続して、事前のミーティングを行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5名		翌日の振り返りになってしまうこともあるが、基本的には送迎終了後に当日の出来事などの振り返りを行っている。	もっと時間を確保できるよう、検討していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5名		支援記録等の記録をしっかりとできている。	今後も、支援計画に基づいた記録を行い、PDCAサイクルを行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5名		6カ月以内に最低でも1回モニタリングを行い見直しをしている。	必要に応じて、不定期での見直しも行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5名		児童発達支援管理責任者だけでなく、必要に応じて担当スタッフも参加している。	今後も、会議に最もふさわしいスタッフの参加を促していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4名	1名	地域の連絡会に参加し、関係機関との情報共有や地域での支援体制を整えている。	担当者会議等にて教育現場と連携する機会はあるが、今後は地域の医療との繋がりを持つよう模索していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4名	1名	特別支援学校に関しては、進路相談や三者面談等に参加させていただき、支援内容の共有と相互理解を図っている。	普通学校に通う児童に関して、学童との併用等について学童と面談する機会がほとんどないため今後の課題として解消できるよう取り組んでいく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4名	1名	事前に面談を行い、支援内容等の情報共有と相互理解ができている。	今後も支援内容等の情報共有と相互理解ができる機会を早めに設けていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1名	4名	児童発達支援センターとの関わりは持っていないが、研修等を通してアドバイスを頂いている。	今後は地域の児童発達支援センターとの連携を図り、研修以外で学ぶ機会を作ることができるよう努めていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3名	2名	施設への参加はないが、児童館や公園などでの交流がある。	インフルエンザやコロナなどの影響でなかなか受け入れが難しい状況があったので、引き続き交流する機会を作れるよう検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5名		対面を基本とし、電話やメール、LINEなどを活用し児童の情報共有ができている。	今後も引き続き、細かい情報共有を行っている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3名	2名	個別でのサポートを行っている。	今後は保護者交流会などを開催し、ペアレントトレーニングを行っていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5名		契約時に運営規程、支援プログラム、利用者負担等について説明を行っている。	今後も丁寧な説明を行い、保護者の安心に繋げていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5名		利用者主体の観点から、保護者と児童の意見を確認している。	今後もこどもや家族の意向を確認しながら、安心に繋げていく。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5名		計画書を作成後に内容説明し、確認後に同意を得ている。	今後も丁寧な説明を行い、保護者の安心に繋げていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5名		必要に応じて、個別での面談などで対応している。	引き続き、早期に保護者の困り感をキャッチしてサポートしていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1名	4名	保護者会などはまだ開催できていない。	今年度中に開催予定。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5名		利用予定などに関して柔軟に対応できている。	運営基準（定員）を守りながら、臨機応変に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5名		毎月のお便りを発行し、日々の活動様子はInstagramを利用し保護者のみ閲覧できる環境で発信している。	今後も、保護者が見やすく、わかりやすいお便りの作成とSNS発信を心がけていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5名		個人情報漏洩の無いよう、鍵付きの書庫を配備し配慮している。	今後も引き続き漏洩のないように注意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5名		言葉だけでなく、絵カードや筆談を用いて対応している。	今後も、スムーズな意思疎通ができるよう配慮していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4名	1名	交流はあるが、行事の開催、招待はできていない。	地域全体が参加できるようなイベントを検討するとともに、行事への参加を検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5名		各マニュアルを作成し、実施している。保護者に周知が行きわたってない可能性がある。	マニュアルを定期的に見直ししていく。また、保護者にも周知していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5名		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に避難訓練を行っている。	今後も引き続き、万が一に備えて訓練を行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5名		契約時に児童の状態や服薬情報などを確認している。	てんかん発作時の対応など、定期的に再確認していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5名		契約時にアレルギーの有無を確認している。	定期的アレルギーの有無を確認していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5名		各マニュアルを作成し、安全管理した上での支援を心がけている。	定期的マニュアルを見直し、より安全に配慮した上で支援していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4名	1名	万が一に備えて緊急連絡網等を作成している。	今後はもっと家族等に周知しながら、定期的に見直しを行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5名		想定されるケースを作成し、共有できている。	現時点でヒヤリハットはないので、今後も未然に防げるよう対応していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5名		定期的に虐待防止研修を受講して事業所内で共有している。	引き続き、細かい情報共有を行っていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5名		現時点で身体拘束の対象者（想定される児童）がいない。	身体拘束が想定される児童の受け入れの際には、しっかりと準備し計画書に記載していく。	